

予習確認プリント

学年：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

・騒音計の周波数補正とは？

・室内騒音の許容値はどのように評価されるか？

・騒音対策にはどのようなものがあるか？

・振動とは？

※予習の段階に比べて、授業を聞き終わった段階では、何がわかりましたか？

4 騒音と振動 (教科書 pp. 131~134)

1 騒音 (教科書 pp. 131~133)

1-3 騒音対策 (教科書 p. 133)

騒音の環境基準

一般騒音や航空機騒音などの環境基準については、時々改訂があるので、環境省のホームページなどで確認すること。

- ・騒音に係る環境基準について

(平成 10 年 9 月 30 日環告 64 改正平成 17 年 5 月 26 日環告 45)

<http://www.env.go.jp/kijun/oto1-1.html>

- ・航空機騒音に係る環境基準について

(昭和48.12.27 環境庁告示第154号 改正 平12環告78)

<http://www.env.go.jp/kijun/oto2.html>

- ・新幹線鉄道騒音に係る環境基準について

(昭和50.7.29 環境庁告示第46号 改正 平12環告78)

<http://www.env.go.jp/kijun/oto3.html>

2 振動 (教科書 p. 134)

振動の測定

振動の測定には、下図のような振動レベル計が使われる。



図 振動レベル計と振動ピックアップ (出典：参考文献 [1], p. 152)

防振対策

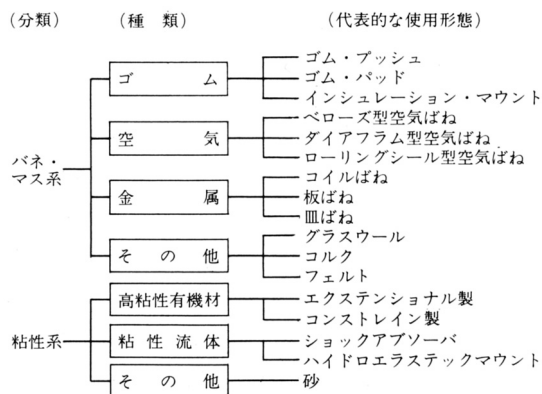


図 防振材料の種類と使用形態 (出典：参考文献 [2], p. 205)

【教科書の訂正】

p. 135 「⑤」

「～1台のみ運転したときは約 80dB である。」

→ 「～1台のみを運転したときは約 80dB である。」

p. 135 「⑮」

「ヒント！ p. 123 『②透過損失』」

→ 「ヒント！ p. 122 『②透過損失』」

p. 136 解答 「⑩」

「(○) 板状材料は、～。」

→ 「(×) 板状材料は、～。」

p. 139 「2 ヒートアイランド」

「30°を超える延べ時間数の分布 (1999 年)」

→ 「30°Cを超える延べ時間数の分布 (1999 年)」

【参考文献】(順に, タイトル, 編著者名, 出版社, 発行年月, 価格, ISBN。〔〕内は熊本県立大学附属図書館所蔵情報)。

- [1]『初めての建築環境』(〈建築のテキスト〉編集委員会編, 学芸出版社, 1996年11月, ¥2,800 + 税, ISBN: 4-7615-2162-7) [開架 2, 525.1 || Ke 41, 0000216584, 0000216585, 0000216586]
- [2]『環境工学教科書 第二版』(環境工学教科書研究会編著, 彰国社, 2000年8月, ¥3,500 + 税, ISBN: 4-395-00516-0) [開架 2, 525.1 || Ka 56, 0000275620, 0000308034]

学年：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

【演習問題】

ある場所の騒音について、音圧レベルを中心周波数 125Hz から 4,000Hz の 6 つの 1/1 オクターブバンドについて調べたところ、125Hz で 60dB、250Hz で 60dB、500Hz で 62dB、1,000Hz で 50dB、2,000Hz で 40dB、4,000Hz で 45dB であった。この時、NC 値はいくらか。教科書 p.132 の図を用いても良い。